

# 大阪大学・アイサックの学生

大阪大学法学部国際公共政策科1年のAさんと言う女学生さんと特定非営利活動法人アイサック・ジャパンの活動にて知り合いになりました。

アイサック・ジャパンは外国人研修生に関係している組織です。その話は後半に書きます。

最初に小生の学生時代の事を詳らかにします。小生は愛知県の私立大学出身で学生時代全く勉強は『今から数えると40年昔の学生生活は、暴走車の改造及び運転テクニックを磨く事・アルバイトまでの空き時間冷暖房の利いたパチンコ屋通い・友人との麻雀・週末の中央競馬の場外馬券売り場通い・一度だけでかけたが全レース全敗の競艇・夕方5時～8時30分のアルバイト・授業の合間の時間を費やすために1杯のアイスココアで如何に効率よく過ごすかを考えた喫茶店通い。名古屋市東部地域の女子大学生が通う喫茶店への通い。以上の事は日常行動でした。要約するとどうやって一時間潰すのか等がこの頃の社会勉強でした。』していません。

全く勉強しない学生であったかも知れませんが、欠点の教科は2つだけでした。そんな大学を卒業して即社会に出て何とか当時活躍出来たと思っています。多少自己満足かも知れませんが、即戦力になれたと思います。同じ材木屋に修行に行っていましたので当然と言えば当然かも知れませんが。

この当時の自分を思い出しながら、大阪大学の学生を見ていると凄く勉強をしているのは解ります。小生とは全く違う中学生活・高校生活・大学生活を送ってきたのではと思います。

話を進めます。先月の10月15日大阪市北区にある大阪大学中之島センターにて開催された(アイサック大阪大学委員会の未来を考える)会合に参加してきました。当日の流れは第一部が2時30分～5時30分、第二部が6時から8時と言うスケジュールでした。

当日の会合の中身を詳らかに出来ませんが、会合で小生が気づいた要点だけを以下に書きます。一番関心が有った質問はグローバルリーダーに求められる資質は何か?でした。これには色々な発言が有りましたが、小生は学生たちに一つだけ言いました。

情熱・根回し力・決断力。人間力、等々が身に付いたのがグローバルリーダーの資格だと思えますが、それには一つ大きな物が欠落しています。あなた達はエリートです。それもトップエリートです。そんな恵まれた境遇にいるのだから、本当の現場の人間の生きざまを知って頂きたい。あなた達は建築で言えば、大手ゼネコンの管理職になるだろうと思います。しかし、本当の現場の事(大工・左官等の職人達の心)が解っていなければ、最高の建築物は出来ないし、形だけ出来たって中身が入っていない物だったら、先々必ず問題が生じると思います。と発言しました。

大阪大学の学生達の親のライフスタイルは彼らと話をしていれば有る程度解ります。苦学して大阪大学に入った方も大勢いると思いましたが、二次会で彼らの本音も聞きました。そこでの話は話せませんが、ある意味凄く恵まれている、恵まれすぎている、これだと思いました。20歳そこそこでビールを飲んでいる学生もいれば、本当にまじめな学生もいます。我々凡人から見たら、スーパーエリートなのだから、それなりの行動はして頂きたいと思いますが、これを当時の小生と比べると凄く悪い子ではなく良い子に該当するかもしれないですね。小生の長男も長女も当時大学生20歳そこそこでアルコールを親戚の法事等で飲んでいたと思います。

我々の頃の価値観を今の学生達に押し付ける事は全く有りませんが、それより大事な物が有る。それが日本人2,000年の歴史の中に有る心ではないでしょうか。我々の時代日本人は外に向けて発信するのは、上手くなかったと思いますが、彼ら彼女らは非常に上手いです。その上手さに私が考える心（現場で働く職人魂を大事にしてほしい）をプラスして対外的に発信してくれたら新しい日本が見えてくるだろうと思います。

## 新しい取りくみをしないと倒産・廃業に繋がる

無垢材を供給する仕組みのあちこちに歪が出ています。来年度以降、考えられない事が起こる可能性が出てきています。

具体的に言えばアメリカ産針葉樹原木を日本国内で輸入している業者がここ3年ほど儲かっていません。これは先々どんな影響を及ぼすのか現時点で解りませんが、材木業界のダイナミックな再編かもしくは益々木を使わないようになり、日本の伝統の木作りの文化の継承に大打撃を与える1年になるか、それとも想像できないクラッシュ状態に陥ってもおかしくないと考えています。

材木を管理する日本中の現場の人達も激減しています。作業に使う道具の補修も先々凄く心配です。又原木を運ぶ木材専用車の激減も著しいです。先に述べたように深刻な状況に有るにも関わらず、材木業界自体が騒がないのが小生は大変不思議です。先々何とかなると思っていればそれは後戻りの出来ない、選択方法は倒産か廃業しかないようになってしまっても仕方がないと思います。

ところで8月中旬建築士さんから物件（公共物件）の大まかな話が有りました。まず元請が決まりました。次いで元請の仕事を受けそうな2社から見積もり（スプルー造作材）の見積もり依頼が来ました。2社共に同じ価格でお返事しましたが、1か月経過しても何にもお返事が返って来ていません。小生の見積もりの条件は（8月末若しくは9月末に弊社の見積もりが、先方の採算に合えば、必ずお返事下さい。納期は12月～1月末で構いません。）でした。

見積もりのお返事を頂いていない以上、建築士さんには、注文が来ても受けられませんよと、はっきり連絡をしていますが、建築士さんは元請との管理はされていますが、下請けの管理はされていません。

この物件は補助金が出る公共物件です。我々の税金が使われるにも関わらず、こんな小生から言うとはとずさんな管理体制だと言わざるを得ません。

なぜこんな形になるかを言えば、設計図面にスプルー造作材（服部商店の品質に準じる商品）と書かれている程度なのです。これでは、在庫を確保する気持ちが湧いてくるはずは有りませんし、全ての樹種に最近の大変化（ちよつとした品物も超品薄状態です。）が起こってくると想像しています。これは先々変化（用意されていると思っていたけど、いざ発注が出たとき困る事）が何時起こっても不思議でないと思っています。

材木屋と言ってもメーカーと流通屋が有ります。流通屋全てを問題にしているのでは、有りません。上で述べた様な発注体制で在庫を確保せよと言っても不可能です。

又、現在の発注体制（必要以外に注文はしないし、価格を叩きすぎている）の為に、所謂現場の人間（大工・左官・建具職人）等々大変な人手不足になっているのでは有りませんか、小生はこのままの体制で行くのははっきり言って嫌です。これを続ければ倒産と廃業しか道は残っていません。

何故こんな体制が維持されているのかを私流に分析をすれば、割と簡単だと思います。需給バランスは供給側と需要側が有ります。材木屋を例にすれば、最盛期の10分の1以下の会社の数に減少したにも関わらず、はっきり言って今でも供給側が単純に多いのです。材木屋が単純に減るとその分生き残る材木屋はやっていけると言う様な甘い状況では決して有りません。

今まで材木の歴史を掘り返ると大工の墨付けからプレカットへ（これで腕の良い大工は激減しました）。システム風呂の普及（腕の良い左官・タイル職人は激減しました）洋間の増加（欄間職人・建具職人・畳職人・大工の激減に繋がりました）原木から製材品へ（港湾荷役・製材関係・協力企業の方々が激減しました。）二次加工品から3次加工品への変化、ヨーロッパ材の管柱への寡占化（日本の森林が荒廃しました）。

ほんの少し考えて見ただけでこんなに多くの問題を生じてきたのです。小生は全てが間違いと言う事は全く有りません。

そんな事をいちいち言っているよりこれから先の日本の住まいはこうあってほしいと言うスタイルを如何に考え、本当の意味の日本の様な成熟社会に求められる体制を考え、行動する事が大事ではないかと思っています。

小生が思うのはどうしたら無垢材の良さを伝えられるのか、どうしたら消費者の皆様が無垢の良さを味わって頂くのに、単純に無垢だから高く付く。これでは説得になりません。どうしたら価格を下げられるのか、こんな単純な事を考えて行動に移しました。この企画が以下の写真です。

この企画にご参加頂いているメンバーは11名です。服部新聞10月号では全員での顔合わせが出



来ていませんので、詳しい事は、来月号で報告します。

この企画と言いますか行動は、10年位前から考えて来ました。単純な思いつきでは有りません。練りに練った計画です。

頭の中にマグマみたいに貯まっていたエネルギーを一気に出して今回行動に移しました。小生が考える無垢材の新しい供給システムの一つの形です。現場の写真前ページ『A T C・9階輸入住宅促

進センターの一部に場所をお借りしました。』をみて頂ければ服部雅章が、何を考えているかわかる方が殆どだと思いますが、来月迄待ってください。この展示場の最終の仕上げが出来上がったのが10月28日の夕方6時でしたので皆様に全部を見て頂くのは来月になります。来月の服部新聞を是非ご覧ください。

## 広葉樹情報

10月中旬の新しいアメリカ広葉樹原木及び製材品の相場情報は、一言で言えば『超強気配』です。例年もこの時期（いわゆる端境期）に中国から大量の注文がアメリカの広葉樹のサプライヤー達にオファーが集中するのですが、今年は昨年比50%プラスの150%のオファーが殺到していると、取引しているアメリカシッパーの営業から報告を受けました。

今年の中国は5年に1回の共産党大会が開催されているので、バイヤーも来年の中国の経済状況は新聞紙上で報道されている6%台以上の経済成長に結び付くと思っているのかも知れません。又共産党大会なんかより国策企業から大量の発注が来ているのかも知れません。中国国内の全貌は全く解りませんが、需給バランスは全く崩れた状況です。特に日本は苦戦すると思います。

現地状況を説明します。樹種的に非常に大量のオファーが来ているのは、ホワイトオーク・ブラックウオールナットだそうです。次いでレッドオークにも多くのオファーが来ているそうです。

この注文に対して、今まで伐採量が比較的少なかった南部地域（サウスカロライナ・ノースカロライナ・ミシシッピ州）の材で供給していると小生の取引先から聞きました。

この話を小生の大先輩に聞いたところ、南部地域の特選木だけが少し抜かれて北部地域で混ぜられる可能性が有るから、服部君、十二分に注意して買いつけた方が望ましいよ。

例えば、全体の原木の質があまり良くないと感じたとき、その中に2~3本程度の良質材が混じっていれば、南部の材を混ぜられる可能性が多いと判断したらとアドバイスを頂きました。

日本国内の市場は針葉樹の良質無垢材を含めてあまり良く有りません。そしてブラックウオールナット原木の特選原木の価格は今シーズンも下がらないと見ています。昨年と比較すると為替は10%日本が損です。そして原木の現地価格も下がらないと言う事は、高騰しているブラックウオールナットに御客様のトレンド変化が起こる年かも知れないと思っています。

中国からブラックチチェリーのオファーは来ていますが、上記3樹種に比較するとそんなに多くないと聞いています。

同樹種は現地価格は横ばいでないかと見ています。ただ、ブラックチェリーと上記3樹種との違いが有ります。それがトラです。チラとも呼ばれていますが、木目が交錯した様な状態です。

これを日本人は好まない傾向に有ります。この欠点は現地での検品で出来るだけ避けてはいますが、100%検品で外してくるのは不可能ですが、今期も辛抱強く頑張って買いつけに行こうと思っています。

今の時点で今期のアメリカ広葉樹の買い付け金額及び数量は決めてはませんが、11月中に現地と打ち合わせをしながら11月末には大よそ確定し12月上旬買いつけに出掛けます。

今シーズンも4カ所のエリアに出掛けます。